

竜を退治した話（丹南町）

昔、昔、大昔。多紀〈たき〉郡がまだ一面に水をたたえて、大きな湖〈みずうみ〉だったころのことです。

湖の底に一匹の大きな竜〈りゅう〉が棲〈す〉んでいました。この竜がたびたび出て来て、人の命をとるので、大へん困っていました。

ある日、とても力の強い神様が、この大きな竜の頭をねらって、たった一矢で射殺〈いころ〉してしまわれました。

湖水は、竜の血でまっかになりましたが、それからだんだん水がへってしまって、みんな安心して住めるようになったということです。

この大竜というのは、実は、多紀郡のまん中を東から西に流れる篠山川の形を竜にたとえていったことで、その頭が川代〈しろ〉の大滝〈おおたき〉の所にあたるのです。

神様が、川代に矢を射たということは、水を落すために、川代を掘り割る大工事が行われたことをいったのです。

その大工事によって湖水が一ぺんにひいて、まん中に篠山川が残りました。つまり、竜が姿をあらわしたのです。

